

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUJIBAKU

2015. 4 No.84

トピックス

江戸一目図公開・文化財めぐり
津山城解説書の刊行
防火査察・エフエムつやま

資料紹介

田外白鷺の四国一周旅行記 東 万里子

研究ノート

津山城跡で行われた博覧会 梶村 明慶

お知らせ

平成27年度の行事予定

(表紙写真 博物館前の枝垂桜)



Tsuyama City Museum

津山郷土博物館

江戸一目図屏風の 実物公開

4月4日から5月6日まで、江戸一目図屏風の実物を公開しています。岡山県指定の重要文化財であることから、年間の



公開期間が2か月以内に制限されており、今年度は秋に他館への貸出予定が入っているため、今回だけの公開となります。江戸一目図と合わせて、蕙斎肉筆の掛軸や、彼が挿絵を手掛けた版本なども展示しています。

スカイツリーにも複製屏風があるから注意して見てね!



博物館キャラクター「ファイアー」

第104回文化財めぐり



去る3月21日、第104回の文化財めぐりを実施しました。今回は、久米地域の中北下から宮尾にかけて歩きました。この地域は古代の久米郡衙跡と考えられている遺跡や白鳳時代の寺院の跡があるなど、久米郡の中心的な場所と考えられています。

当日は、暖かくて雲一つない良い天気にも恵まれ、参加者の皆さんも、うららかな春の一日、ハイキングを楽しまれたようでした。

津山城解説書の刊行

このたび当館では、津山城について一般向けに解説した『学芸員が作った津山城の本』を刊行しました。当館の入館者や観光客の皆さんから「津山城について解説してある本はないだろうか」という問合せを、以前から多くいただいていたました。そうしたご要望に応えるべく、津山城の構造や歴史はもちろん、城のおもな見どころや歴代の城主についても紹介しています。

A5判・オールカラー80ページの冊子で、写真や図表を数多く掲載し、読みやすくわかりやすい内容を心がけました。価格は1冊800円、当館および市内の書店で販売中です。携帯しやすいサイズですので、これを持ってお城を散策すれば、本の内容が頭に入りやすいでしょう。

5月9日には、博物館の学芸員が引率して見どころを解説しながら津山城を歩く企画を開催し、一般市民に広く参加者を募ります（案内は別途行います）。本の刊行やこのイベントをきっかけとして、津山城の魅力の再発見・再認識につながれば幸いです。



これを読んで
津山城のことを
勉強してみよう!



博物館キャラクター
お「パルフェ」



防火査察



昭和24年（1949）の法隆寺金堂火災を契機として「文化財防火デー」に定められた1月26日の前後には、各地の文化財所在地で防火訓練をはじめとする防火運動が展開されます。当館では、1月22日に防火査察があり、館内の消防設備のチェックを受けました。収蔵している文化財を確実に後世に伝えるために、これからも防火に努めてまいります。

FMつやまへの出演



土曜の朝は
ラジオを
聴いてみよう!



博物館キャラクター
つきよのすけ
「津郷之介」

ます。当館からの出演は平成22年4月からで、最近では毎週土曜の朝9時台に放送している「好きです！つやま！780」^{ナナテマル}に、6週ごとに出演しています。その時々博物館の近況を交え、毎回テーマを決めて、パーソナリティの村田勇さんとの対談形式で進行します。興味を持たれた方は、ぜひ聴いてみてください。



平成21年12月から本放送を開始して津山市民に好評の「エフエムつやま」には、定期的に当館の学芸員が交代で出向き、津山の歴史に関する話題を提供しています。

田外白鷺の四国一周旅行記

東万里子

田外白鷺は旧久米町で生まれ、津山高等女学校に教師として勤務し、昭和34年(1959)に74才で亡くなった人物です。

写真の資料は、田外白鷺が四国一周旅行の様子を描いた長さ約1m20cmの巻物の一部です。この巻物を開きながら、白鷺と彼が「若殿様」と呼んでいる友人との旅程をたどってみましょう。

大正4年(1915)、「炎暑黒金をも溶かさんとする真只中」の8月4日、「弥次郎兵衛にも似たる白鷺」と「北八には似もやらぬ(中略)若殿様」は自転車で津山を出発、四国一周の旅に出ました。連絡船児島丸に乗船し、翌日には丸亀で洪水に遭遇します。途中汽車に便乗して立川銅山を見学。7日は道後に宿泊、「奮発して霊の湯に入り」、10日には大歩危小歩危を無事通過。11日、「船鳴門の口を過ぐ、浪激しくして船は木の葉の如くゆり上げゆり下げられ」るも、12日には、鳴門で自宅宛に出した手紙より早く、自宅に帰りつきました。

今回ご紹介したこの巻物の他に、東京へ行ったときの様子を描いた東京編もあり、いずれも絵入りで旅の様子を記録した、たいへん興味深い資料です。



④8月11日 西瓜を食べる、揺れる船内



①7月31日 四国一周作戦計画



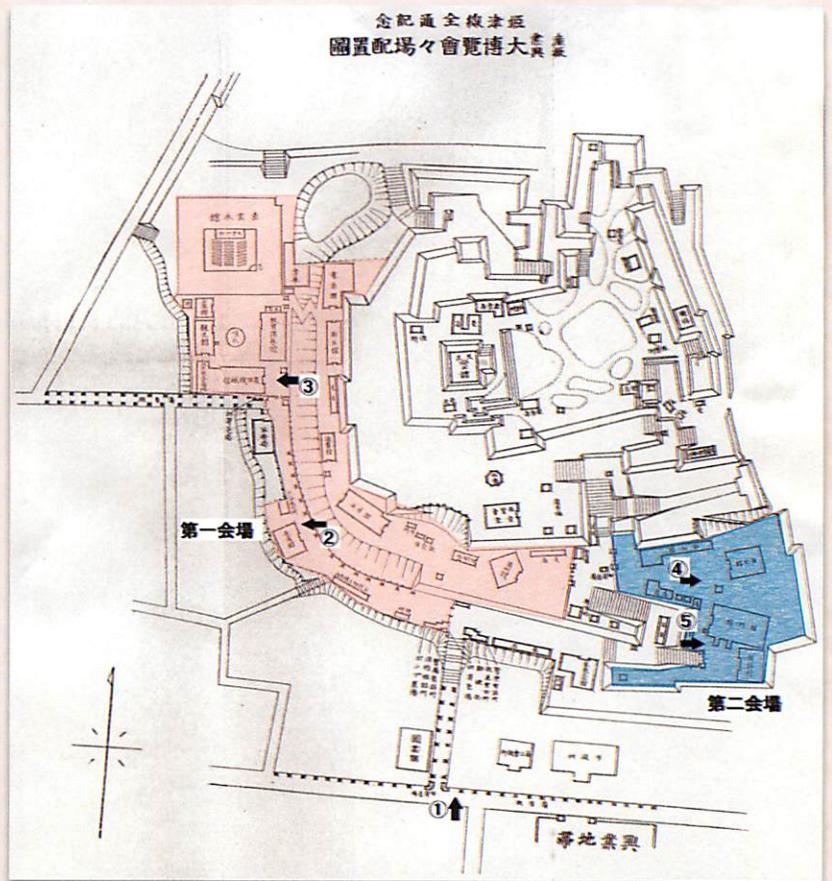
③8月7日 霊の湯



②8月6日 立川銅山見学



写真①



会場配置図 (『津山市主催姫津線全通記念産業振興大博覧会並二協賛会誌』より)

津山城跡で行われた

博覧会

梶村 明慶

はじめに

津山城は明治維新後の廃城令により建物は取り壊されてしまいました。しかし、その後の保存運動により城跡は「鶴山公園」として整備され、また、福井純一氏などの尽力により、桜の名所としても有名になり、津山のランドマークになっています。

現在でも桜の季節には「津山さくらまつり」が開催され、また、その他にも数多くのイベントの会場として使用されていますが、過去には、津山で3回行われた博覧会の会場にもなっていました。中でも昭和11年(1936)に行われたものでは、元々の形とは全く違うとはいえ目玉として天守閣が再建されています。その天守閣の写真などが様々な機会などで紹介されており、ご存じの方も多いと思いますが、博覧会の様子を知る方は少なくなっています。

そこで、ここでは当時の古写真や記録を基に、再建天守閣以外の博覧会の様子についてご紹介します。

博覧会の概要

この博覧会は名称を「姫津線全通記念産業振興大博覧会」といい、姫

津線(現JR姫新線津山〜姫路間)の全通を契機に津山の飛躍を期する目的で、昭和11年3月26日から5月5日の期間で行われました。

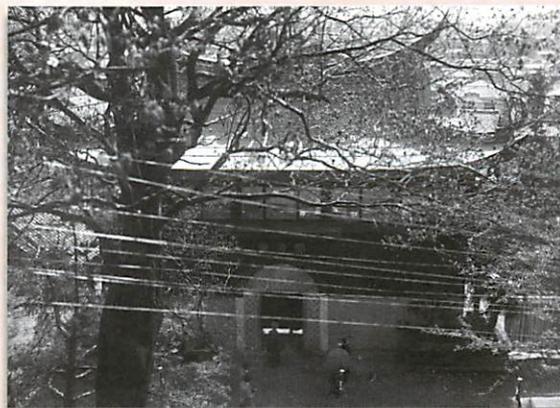
会場は鶴山公園一帯でしたが、メインの会場は津山城跡三の丸から現在の津山文化センター手前の桜の馬場でした。このメイン会場を二つに分割し西側(会場配置図のピンクの部分)を「第一会場」、東側(会場配置図の青色の部分)を「第二会場」として行いました。

会場の様子

本稿では、写真①から⑤までの5枚の写真を基に、会場の様子を順路に沿って見ていきます。まず、写真①は正面入口に作られた門です。この門をくぐった通路には広告塔が立ち並び、その道を進み、突き当りを左に曲がると第一会場の入口になります。そして、第一会場を進むと、中国風の建物である写真②の台湾館が見えてきます。次に、その先の突き当りにあるこの博覧会の題名にもなっている「産業」について展示している産業本館一帯を見学します。写



写真④



写真②



写真⑤



写真③

真③はこの区画を写したもので農林機械館の建物が見えます。

三の丸に登ると「電気館」、「お化け館」、「満州館」などを見て第一会場を後にし、次の第二会場に入ります。すると昔話にでてくる竜宮城のような建物の写真④の海女実演館があります。その先には写真⑤に写っている国防館と朝鮮館がありました。鶴山館は明治37年にこの国防館がある場所に移築されています。したがって、この建物は鶴山館に戦車の形の飾り付けなどをして利用したものと思われまます。

こうしてメイン会場の第一・第二会場を見終わると博覧会の展示館は終了し、その後は二の丸、本丸などの公園内を散策し、協賛会が建築した天守閣の郷土館を見学するというものが主な順路になっていました。

世相を反映した展示館

この博覧会が行われた昭和11年は日中戦争が始まる前年に当たり、当時の世相を反映した展示館が作られていました。当時植民地であった台湾館と朝鮮館、実質的に日本の影響下にあつた満州国についての満州館、そして軍事について展示をしている国防館などです。

これらの展示館の誘致活動は大変熱心に行われました。台湾館、朝鮮館、満州館などについては、直接、またはあらゆるつてを使って各総督府などに陳情を行い、誘致が決定すると

「事務局は凱歌を揚げた」という喜びようであつたことが、この博覧会の記念誌である『津山市主催姫津線全通記念産業振興大博覧会並ニ協賛会誌』に記されています。

この記述から、これらの展示館は国から政策として押しつけられたのではなく、開催者側が自ら必死に誘致していることがわかります。この時代、このような国威発揚を促す展示館は、一般市民にも受け入れられ、集客が見込めるものになっていました。

姫津線のもう一つの終点である姫路で同時期に行われた博覧会が「国防と資源博覧会」であつたことを見ても、当時の博覧会などの催し物では一般的な傾向であつたのかもしれない。

おわりに

この博覧会の前、大正6年(1917)に津山で行われた博覧会は「津山産業博覧会」という名称で、同じく産業をテーマにしたものでした。

しかし、大正の博覧会では、産品を展示する展示館が4館と余興館、日光模型館などと、国威発揚を促す展示館は見えてとれません。それから19年後に行われた昭和11年の博覧会では、その内容を見てみても、時代が確実に戦争へと向かっていることがうかがわれます。

※写真①～⑤は江見写真館蔵

平成27年度 津山郷土博物館 行事予定

特別展示

◆特別展「佐平焼(仮)」

会期／10月3日(土)～11月8日(日)



浮田佐平(1867～1939)は製糸業・植林・製材・観光開発など、多彩な事業をなした実業家でした。50歳を過ぎた佐平は、郷土の名産品を増やすため、各地から陶工を呼び寄せて大規模な窯を築き、最高の焼き物づくりに挑戦しました。これが、佐平焼と呼ばれる焼き物です。難しい結晶釉にこだわって制作された佐平焼は、美しく光る細かな模様が特徴です。本展では、知られざる佐平焼の魅力をご紹介します。

◆「江戸一目図屏風」の実物公開

春季／4月4日(土)～5月6日(水)(祝)

秋季／貸出のため、

当館での公開はありません



博物館キャラクター
「鶴若」

今年もいろいろな行事に
参加してくださいね!

出版

- ◆特別展図録「佐平焼(仮)」の刊行
- ◆「江戸一目図を歩く」・一目図クリアファイルの増刷
- ◆平成26年度年報の刊行

広報活動

- ◆博物館だより「津博」の刊行
No.84／4月 No.85／7月
No.86／10月 No.87／来年1月

教育普及活動

- ◆古文書講座「津山藩松平家文書を読む」
5月21日(木)・6月18日(木)・7月16日(木)
9月17日(木)・10月15日(木)・11月19日(木)
1月21日(木)・2月18日(木)・3月17日(木)
全9回(8月と12月を除く)
- ◆夏休み子供歴史教室
「陶棺をつくろう」
7月29日(水)・8月18日(火) 全2回
「カルメ焼きをつくろう」
7月28日(火)
「勾玉をつくろう」
8月11日(火)・12日(水)
「トンボ玉をつくろう」
8月4日(火)・5日(水)
- ◆文化財めぐり(友の会)
5月9日(土)「津山城を歩いてみよう」
10月17日(土)・3月19日(土)



博物館だより「つはく」
No.84 平成27年4月1日

津博
TSUOHAKU

【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

【印刷】有限会社 弘文社

入館のご案内

- 【開館時間】午前9:00～午後5:00
- 【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始(12月29日～1月3日)・その他
- 【入館料】一般…200円(30人以上の団体の場合160円)
高校・大学生…150円(30人以上の団体の場合120円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方・
市内在住の65才以上の方は、入館料が無料です。